

令和 4 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (1)教育の質的転換に関する事業

申請組織 生活科学部

申請組織長 役職名 生活科学部長 氏名 本山 昇

統括責任者 役職名 管理栄養学科講師 氏名 三田有紀子

課題名 「第 17 回食育推進全国大会 in あいち」への出展に向けた食育絵本と食育玩具の制作

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	三田有紀子	生活科学部・講師	統括、食育絵本ストーリーの指導
		井澤幸	生活科学部・助教	絵本及び玩具のデザイン指導
		川口香子	生活科学部・助教	絵本及び玩具のデザイン指導
		山下健	生活科学部・講師	玩具制作にかかる工作機器の技術的指導
		加賀谷みえ子	生活科学部・教授	食育絵本ストーリーの指導

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

事業は生活科学部の両学科の学生が協働で、食育をテーマとした絵本及び、玩具を制作し、2022 年 6 月 18・19 日に開催された「第 17 回食育推進全国大会 in あいち」に出展することを目的として実施した。この取り組みでは、管理栄養学科での「食育と健康」に関する学びと生活環境デザイン学科での「ものづくり」の学びが融合し、教育の質の向上に寄与することができる。また、出展を目指す大会のコンセプトは「あいちの『食』の魅力を体感する場」であり、地元の食文化や郷土料理、農産物をテーマとした絵本や玩具を制作することで、この取り組みが地域への文化発信につながることを期待される。

2. 事業方法（特色・独創性）等 (300 字程度で記述)

本事業の特色は、それぞれの学科で行っていた取り組みを学科や学年を横断して、特徴ある学びを融合することで成果物が生まれるところにある。管理栄養学科では、食育に関する教材作成は行っているが、教材の形態は平面的であり、デザイン性や素材の追求は困難であった。一方、生活環境デザイン学科では、デジタル工作機器を利用した学外での活動を行っているが、学科独自の活動にとどまっていた。今回両学科の特徴を活かした融合によって、食育をテーマとした絵本、玩具を学生が中心となり企画、立案、制作を行った。また、制作した成果物は、多数の来場者が見込まれる全国規模の大会で実際に使用し、制作だけにとどまらず、幼児の使用感などを現場で確認して実際の意見を収集した。

3. 事業の成果（600字～800字程度で記述）

＜食育絵本のストーリーの作成＞ 管理栄養学科の教職（栄養教諭）専門科目「事前事後指導」（3年後期）において、19のストーリー案が提出された。その中から、教員、管理栄養学科4年生などで選定を行い、原案として4案（巨大絵本案：「ダイズのかくれんぼ」、作成絵本案「今日のごはんはどうできる？」「もう好き嫌いしない！！」「やさいの中身はなんだろう？」）を抽出した。

＜学生チーム結成＞ 有志として合計25名の学生（管理栄養学科1年2名、2年9名、生活環境デザイン学科2年7名、3年5名、教育学部2年1名）が参加し、3グループに分けて玩具および絵本の企画、立案を進めた。

＜企画案作成＞ 授業課題のストーリーを原案として各グループで改善を加えたのち、企画案（絵コンテを含む）を作成した。その内、玩具は、事例調査によりコンセプト、機能、素材、デザインを検討した。2週間に1度、教員による指導の場として進捗状況の報告会を実施した。以下、3グループで企画した内容を示す。

A 絵本：「これ、なにに？」 玩具：「なんで？の木」

B 絵本：「おべんとうをつくろう！！」 玩具：「あいちを1番知っているのはだれ？」

C 絵本：「なべをあけたら」 玩具：「食材集めゲーム」

＜絵本・玩具作成＞ 絵本は、データをデジタル化し、素材等の選定を行った上で製本した。玩具は、デジタル工作機器を利用し、試作品を作成後、改善を加えた後に本制作をとした。また、巨大絵本は、原案をもとにして内容をブラッシュアップし、工作太郎氏とともに本学で最終作成した。

＜ワークショップの実施＞ 「第17回食育推進全国大会 in あいち」において絵本、玩具の展示を行い、作成に参加した学生が来場した幼児、学童に対して制作絵本の読み聞かせや玩具の説明及び体験を促した。また、上記内容を踏まえて、「SDGs AICHI EXPO 2022」の愛知県ブースにおいてワークショップの出展も実施した。

4. キーワード（本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載）

①学部事業	②学科間交流	③食育	④玩具
⑤絵本	⑥食育推進全国大会	⑦SDGs	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題（事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。）

今回の企画では、それぞれの学科の特徴を活かし、学科だけでなく学年も横断して成果物として完成させることができ、その成果物を実際に子どもたちに触れてもらい、交流を図ることができた。今回のイベントである食育推進全国大会では、2日間通して23,515人の来場者があり、いくつかの企業からは作成した絵本や玩具について問い合わせもいただいた。

また、この企画を通して愛知県からお声掛けいただき、10/8にSDGs AICHI EXPO 2022 愛知県ブースのワークショップとして出展した。このイベントは愛知県が毎年実施しているもので、参加した日には4,554名の来場者があった。食品ロス問題など食にかかわるSDGsを子ども達に啓発するブースとなり、子どもたちが実際に遊びながら学べる有意義なワークショップとなった。

以上の出展には、学生達が学科間、学年間の繋がりを持ちコミュニケーションの場を広げただけでなく、それぞれの学びが互いに交差して今までにない刺激が得られたと考えられる。さらに、これらのイベントを通して学生達から発信する大学のPRにも繋がったことも実感でき、今後このような取組みを実施することの意義が感じられた。